

農業分野のマグネシア利用

マグネシウム含有肥料が日本人の健康を作ってきた。

マグネシウムそしてマグネシアに、また、新たな重要な分野が拓けてきた。それが、農業である。具体的には、肥料である。

肥料は、農作物の育成に欠かせない存在である。肥料の五要素としては、窒素(N)、リン(P)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、マグネシウム(Mg)がある。この他、硫黄(S)、鉄(Fe)、マンガン(Mn)、ホウ素(B)、亜鉛(Zn)、

モリブデン(Mo)を加え、必須元素と呼ばれ、この元素が一つでも欠けると正常な成長が出来ない。

注目されるのは、肥料の成分が作物に取り込まれることで摂取するヒトの栄養素として重要な役割を果たしていることが分かってきたことにある。そして、肥料成分中のマグネシウム含有量が減少したのが現代日本人のメタボリック症候群などの要因の可能性が高まってきたのである。

マグネシウムは苦土とも呼ばれ、葉緑素を構成する元素である。葉緑素は、いうまでもなく光合成を行う植物細胞器官葉緑体に含まれている。炭酸ガス(CO₂)と水(H₂O)を原料に、太陽などの光エネルギーを使ってでんぷんなどの炭水化

物(C₆H₁₂O₆)と酸素(O₂)を葉緑体でつくる。葉緑素がなければ、でんぷんも酸素も出来ない。つまり、地球に生きるすべての生命にとって必要不可欠な存在である。その成分がマグネシウムなのである。

肥料としては硫酸苦土肥料や水酸化苦土肥料などの名前で使われてきた。しかし、近年になってかき殻の有機肥料が多用されるようになったが、ここにはマグネシウムが殆ど含まれていないのである。これによって、農作物からのマグネシウム摂取が大幅に減ったとし、健康を損なう要因になったと指摘するのが、東京農業大学客員教授で農学博士の渡辺和彦氏である。

渡辺氏は日本の肥料学の権威のひとりである。そして肥料に関わる長

年の研究からマグネシウムの重要性に気付いたのである。

「本来は食物からマグネシウムを豊富に取り入れることが大事であるが、それが難しいだけにサプリメント利用も効果がある」と指摘している。

そこで、ミューでは、農業分野でのマグネシウムの重要性について渡辺氏に訊くことにした。

また、アメリカのキャロリン・デーン医学博士もマグネシウムに着目する学者の一人である。「カルシウム不足が永年唱えられてきたが、マグネシウムが無いと身体に吸収されない。殆どすべての生合成反応や代謝反応に必要不可欠」と指摘している。世界がマグネシウム効能に注目しているのである。

特集

